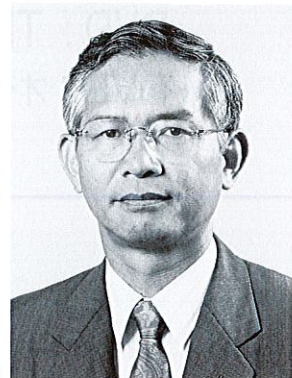


マルチメディア時代の光ディスク技術 Optical Disc Technologies for the Multimedia Era



森 健一
Ken-ichi Mori, Ph.D.

マルチメディア技術の時代を迎えたことを告げる記事が多くの技術雑誌や論文誌に掲載されています。しかし、そこに述べられているのはデジタル技術の応用によって、画像や音声、文字、データなどの情報が包括的に扱えるので、処理速度が速くなり、処理装置がコンパクトになることが強調されているだけで、具体的にどのような応用が新しく展開され、それを支える新しい技術はどのようなものであるかを示したものは多くはありませんでした。このような記事を読むだけでは、マルチメディア時代とはどのような時代であるかを知ることはできません。技術的なシーズの動向から将来を展望しているために、市場でどのようなニーズが具体的に望まれているのかを踏まえていないからです。

当社では経営トップからのチャレンジもあり、21世紀にはどのような映像情報や文字・音声情報が具体的な生活の場面で必要とされているかの潜在的なニーズの分析が行われ、それを実現するための商品のコンセプトはどのようなものであるかを明確にする作業からマルチメディア技術の研究開発がスタートしました。

将来の未知の商品のコンセプトを創造する方法としては、日本語ワードプロセッサの研究開発の際に開発された方法が適用されました。思考の柔軟な21世紀を担う若い世代の人達が集まり、現在どのような手段で生活に必要な情報や生活をエンジョイするための情報を得ており、その情報の質や内容にどのような不満を感じているか、どのようにすれば不満を解消できるかを生活のいろいろな場面を想定して分析しました。その結果を用いて、未来の情報機器はどのような機能をもつべきかをブレインストーミングで発掘

し、そのなかでもっとも重要な機能は何かを議論によって突き止めていきました。

このような機能をもつ新商品が実現したとすると、どのような事業発展をするかのシナリオも想定しました。そして最後に、求められている重要な機能を実現するには、どのような未踏革新技術の研究開発をしなければならないかを明らかにしました。21世紀に必要な情報の主体は映像情報であり、それを記録し、安価なコストで配布したり、保存する技術が決定的に不足していることが明らかになり、その解決には光ディスク技術を大幅に発展させることが不可欠であることが示されました。

このような新商品のコンセプトは具体的な活用の場面のイメージを強く反映しているために、コンセプトを聞いただけで多く的人是にさらに活用の場面を拡大するためのアイデアを生み出すことができます。未踏革新技術を解決するための新しい技術的なアイデアが当社研究開発センターで着想されて、その実現のための研究開発が推進されているときに、タイムワナー社の映像メディアの担当重役に新商品のコンセプトの説明をしたところ、まだ現実的には技術開発中にもかかわらず話に乗ってきたことから、コンセプト創造の重要性がうかがわれます。その後、当社がリーダーシップをとり、世界の多くの企業に話し掛け、その賛同を得て、マルチメディア時代の光ディスクの世界標準の規格がまとまったことは記憶に新しいことです。

時代を先取りする画期的な新製品を生み出すには、その中心になるコンセプトを創造することが重要です。当社は、今後このようなコンセプト創造を通じて社会に大きく貢献していきたいと念願しております。